



アマゴ漁を楽しむ豊田さん



解禁日のアマゴ

アメゴ漁解禁！

3月1日、四万十でもアメゴ（アマゴ）漁が解禁になりました。待ちに待ったこの日を楽しもうと、地元の人のみならず、県内外からたくさんの釣り人が四万十を訪れます。今回はそんなアメゴ漁解禁初日の様子を津野町の北川川で取材しました。

■ 解禁初日 ■

前回の清流通信でも登場した四万十川の第二支流、北川川は、四万十川本流と同じく不入山にその源流があります。ここはアユ釣りスポットとして人気ですが、アメゴ釣りでも多くの釣り人が訪れるとても活気のある川です。そんな川で長年アメゴを釣り、地元でも有名なアメゴ釣りの名人と言われているのが今回取材した豊田庄二さん。北川川のすぐそばに住み、地元の歴史にも詳しい豊田さんは、四万十リバーマスターとして高知新聞の釣り情報に情報提供をいただいています。

早朝、まだ日も昇らないうちから釣りはスタートします。この日の天気は曇り。影ができてにくい曇りの日はアメゴ釣りにはうってつけです。アメゴ釣りは難しく、川の流れでかかったという感触がつかみにくい。警戒心の強いアメゴは餌に食いついても啜えたまま流れているらしく、鉤がかりしにくいなど、なかなか簡単には釣られてくれません。釣り人はそんな魚との駆け引きを楽しみます。

「瀬頭と瀬尻を狙うのがコツやね。それか瀬と瀬の間あたり。ポイントごとに餌や針を変えながらやったりす

るね。今日は朝5時から釣りよったけど、今年はちょっと小さいし痩せちゃうね。去年台風が多かったのと年末の大雨で餌が全然おらんかったのが原因やと思う。普段やったらセムシ（トビケラ）がもっとおるがやけど今年はおんまりおらんきね。」と、例年に比べるとサイズも小さく、少しやせているとのこと。川の色に合わせて、保護色で黒くなっている個体もいました。

今年は新型コロナの影響か、釣り人はいつもより少し少なめだと言います。特に県外からの釣り人が少ない様子で、県外ナンバーの車も数台しか確認できませんでした。それでも、取材中確認できただけでも約20人の釣り人が、解禁初日の釣りを楽しんでいました。そんな釣り人の様子を確認しながら移動するのも豊田さんの役割。「移動しながらどこに何人釣り人がおるか確認して、魚族会の仲間に情報を入れちゃらなね。今日は僕が全く仕事にならんことはみんな分かっちゃうけど。」

この日の釣果は全部で11匹。サイズは15cm～18cmとやはり少々小さめ。他の釣り人に話を伺っても、「数はおったけどサイズがこまかった」という声が聞かれましたが、中には27センチの大物を釣ったという人も。それでも4月ごろにはサイズもだんだん大きくなっていくとのこと、実際に3月中旬頃に釣ったアメゴを見せてもらいましたが、全体的にサイズが大きく色もきれいで、20cmを超えるアメゴもいたそうなので、これからの時期はますます楽しめそうですね。

■ 津野山アメゴ ■

ところで、「津野山アメゴ」をみなさんご存じですか？昔から梶原町と旧東津野村一帯を津野山と言ひ、この地域独特のアメゴで、パーマークが大きくそして数が少ない、また朱点も少ないのが津野山アメゴの特徴です。放流ものとは明らかに特徴が違い、四万十川在来アメゴとして貴重な生き物ですが、近年、放流アメゴの影響で個体数が減少してきています。そんななか、豊田さんも所属する「よみがえれ四万十源流の会」は、津野山アメゴの調査をはじめ、四万十川源流域の自然環境を調査し、かつての川を取り戻そうと活動されています。その他にも津野山には豊かな自然を象徴するたくさんの生き物が暮らしています。むやみに自然を壊さないよう、勝手に放流しないなど、私たちも一緒にこの自然を守っていききたいですね。



津野山アメゴ（出典：[よみがえれ四万十源流の会](#)）



取材にご協力いただいた豊田二さん。芳生野地区の観光ガイドや在来アメゴの保護を精力的に行っています。

■ 四万十街道ひなまつり ■

取材のついでに、前回の清流通信でも紹介した「四万十街道ひなまつり」の会場にもお邪魔してきました。津野町内では5か所で開催されていますが、今回お邪魔したのは北川地区、芳生野地区、郷地区の3か所。どの地区も地域の方が持ち寄って集まったお雛様が飾られていて、とても華やかでした。会場によって魅せ方もさまざままで、お雛様と一緒に打掛を飾っているところもあれば、地元の地域おこし協力隊が、地域でとれたお茶をPRしているところも。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、現在開催を中止しているそうです。芳生野地区の拠点会場となっているのが、今回取材した豊田さん家族が管理する「吉村虎太郎邸」で、ここには大正時代に作られたお雛様が展示されているほか、北川出身の幕末の志士、吉村虎太郎について知ることができます。軽食も出しておりますので、休憩に訪れてみてはいかがでしょうか。ひよっとしたら、釣り人が、情報交換をしに集まっているかもしれませんよ。



北川地区の雛飾り



郷地区の雛飾り



大正時代の雛人形



芳生野地区の雛飾り

イベント情報

■ 道の駅四万十とおわにジップラインがオープン予定！

全国的にイベント開催の自粛の動きが広まっていますが、四万十川流域でも、中止となったイベントが多数出ています。については各イベント主催者、または観光協会等の情報をご確認ください。

さて、道の駅四万十とおわに今年の春、ジップラインがオープン予定！四万十川をまたぎ、道の駅とおわから対岸のご成婚の森まで、約200mのジップラインが通ります。空中を駆け抜ける爽快感と、眼下に広がる四万十川の壮大な景色が楽しめるジップラインは、四万十川の新しい目玉観光スポットになること間違いなしです。

■ 道の駅四万十とおわ

【住 所】高岡郡四万十町十和川口 62-9

【TEL】0880-28-5421

【ジップラインに関するお問い合わせ】

四万十町役場十和地域振興課 TEL：0880-28-5111

